

---

# 愛と命の境界線

雨陽 夏風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛と命の境界線

### 【Nコード】

N8936A

### 【作者名】

雨陽 夏風

### 【あらすじ】

新一x志保Storyですが、死にネタです。最後の最後ですが、イヤなかたはどうぞBackください。新一と志保はラブx2になります。新一に病魔が襲い掛かり……！？

## PROLOGUE

### PROLOGUE

彼と共にいられる。

私には、それが何よりの幸せだった。

昔の私にとっては、ありえない事で……

しかも、初めて知った気持ちが、重なったのだから。

でも……、神様は何処まで残酷なのだろう。

何処まで私と彼を追いつめるのか……。

私は泣いた。

彼のベットの傍らで……。

初めての愛と目の前に見える闇を考え、

泣いた……。

何故私が泣くのだろうか？

本当に、……

本当に苦しいのは……。

彼だというのに……。

## PROLOGUE (後書き)

初トリーコーなのでおおめに見てください！これから、よろしく願  
いします！！！！！！

## FILE 1 重なる想い

### FILE 1 重なる想い

泣きつかれてしまった私は、彼にもたれかかって、そのまま眠りについた。

新一

「組織も破滅して、解毒剤もできて、元に戻って……最高だな」

志保

「調子に乗りすぎると大変よ。彼女にフラれるかもよ？（クスッ）」

新一

「なあ、言おうかどうか迷ってたんだけどよオ、俺、もう蘭の事何とも思ってたねーんだよ。蘭には悪いけど、それが正しい気持ちだってわかった今、蘭に直接会って伝えようと思ってる。」

志保

「え?????????冗談はよして頂戴。蘭さんはずっとあなたを待っていたのよ。あなた今更何を!!」

新一

「志保…冗談じゃねーんだ。真実だ。聞いてくれ……………」

……………俺はお前と会う前まで確かにアイツの事を愛してた。いや、お前と会ってから、好きなフリをしていた。けどな、志保…………俺は…好きなんだよ…クールで強がりで優しい志保のことが…………」

志保

「……………」

新一

「（は、恥ずかしかったー）」

志保

「…（お姉ちゃん…私、幸せになつていいのかしら…？……お姉ちゃんや、優しくしてくれた蘭さん、吉田さん達を置いて……特に蘭さんなんて、工藤君の事を愛してやまないと言うのに！……！！ねえ…いいのかな？……お姉ちゃん………）」

新一

「哀……じゃなくて、志保………？？大丈夫か？…どうした？……そ、そんなに俺の事がやだったのか！？」

彼が心配してる…

ああ、きつとこれのせいね。さつきから頬を伝う温かいもの……嬉し涙かしら？フ…自分だけ幸せにはなれないなんて私、思つてないのね。

感情が堪え切れず、嬉し涙が流れるだなんて。ごめんなさいね、蘭さん。

でも、

この気持ちは………

止められない！

志保

「いいえ、どうもしないわ。……ただ、驚いたのよ…あなたも私と同じ気持ちだったと知って……」

新一

「同じ…気持ち…？？そ、それって………！！」

志保

「ええ、………

私もあなたが好き………」『好き』初めて使うくらいに懐かしい言葉…何年ぶりかしら？

頬が林檎のように赤くなるのを感じた。

彼は、ただ呆然と立っている。

ふふ……それがまたかわいくて、思わず笑顔になってしまう。

それから彼は、ただ、何も言わずに私を、抱きしめてくれた。  
彼の温もりが体の中をつたい、恥ずかしい気持ちになる。

……こうして私達の恋は始まった……………

## FILE 2 つかの間の幸せ

FILE 2 つかの間の幸せ

「ふあゝあ……」

私が彼のベットの隅でめざめると、彼が起きていて、力なくだが、  
（病気のせい）笑っていた。

新一

「何の夢見てたんだ……ゴボツゲホツ……？」

志保

「秘密よ。それよりさすがね。なんで私が夢見てたってわかったの  
？」

新一

「バーロ！笑いながら『私だけ幸せが』どうのこうのって言ってた  
ぜ」

志保

「今日は少し調子がいいみたいね。散歩にでも行きましようか！」  
私は必死に話題をそらした。まあ、確かに彼の顔色もよかったから、  
本当のことだけだ。

新一

「おう！いいな。志保、許可とってきてくれるか？中庭私は必死に  
話題をそらした。まあ、それだけじゃなくて、本当に彼の顔色がよ  
かったからでもあるけれど。」

新一

「おうっ！いいな！。志保、許可とってきてくんねーか？中庭なん  
だからすぐ許可でるだろ。」

志保

「わかったわ。」あの、夢の幸せなときから3ヵ月後から中庭の散



歩は具合の良い日の日課。  
まあ、あの頃は、毎日いつてたけれどね。

## あの日の朝

志保

「朝よ。起きなさい！博士の家に行くって言ってたじゃない！」

新一

「お、おう……」

志保

「まったく……博士待ってるわよ。」

++++++新一

「悪いな、またせちまって！」

志保

「まったく、博士、心配してるわよ。…さ、行くわよ！……！」

私は呆れ顔で言い、彼の腕を引っ張った。

新一

「わあってるって。」

新一は小声で、『痛ーじゃねーかよ！』とかなんとか言ってたけど、聞こえないフリ。。。

こんなくだらないけれど幸せな日々がどこまでも続くものと、…  
この時の私は思っていた。

## FILE3 突然の病魔（前書き）

今回登場する、高校、大学名は、作者が作った架空のものです。

### FILE 3 突然の病魔

新一

「博士……！！来てやったぞー！！！！」

2人の気持ちが一つになつてから、私達は、米花町のお互いの家（私は博士の家だけれど）をでて、都心である、東都高校の近くに移り住んできた。

そして、もちろん、蘭さんとの関係に終止符をうつた彼は、東都高校に転校生として、やってきたのだった。蘭さんは、始めのうちシヨックの余り、学校すらまともに行けていなかったようだけど、彼がやっと隠さず全てを言ってくれたことの方が嬉しかったようで、今では元気に園子さんと一緒に学校へ通っているそうだ。私はというと、彼と同居（同棲っていうのかな？）しつつ、たまの休みにはこうして、博士の家に遊びに行っている。彼が博士の家にくることはなかなかないけれど、たまにでも来ると博士が喜ぶので、今日は無理矢理つれてきた。

そうそう、大学は、東都高校の近くの東都日本大学に行っている。学部は薬学部……とかいう想像が多いみたいだけど、違う。

もう研究研究の毎日にはあきてきていたので、気分転換に新しいことを始めたいという理由で、教育学部。将来、小学校の教師になつて、小嶋君や、円谷君、そして吉田さんのような子供達と一緒にまた、いろいろな思い出が作りたいと思っている。

勿論、彼の探偵事務所（新しくできた）も手伝いながらね。

博士

「おっ！今日は新一君も来てくれていたのか。ちょうどよかったわい！ケーキがあまつとるんじゃないよ。」

志保

「そう、じゃあ私もいただいでいくわ。」

新一

「俺も～～!!」

志保

「ところで、博士？最近あの子達どうしてる？」

博士

「ああ、探偵団のみんななら元気にやっておるぞ。最近事件の依頼が減ってつまないとはいったがな……。……」

新一

「ははは…………俺がいなくなると事件が減るんだよな……………」

志保

「でも、まあ、楽しくやってるんだし、いいんじゃないかしら。」

新一

「そういう事だな！」

彼は軽くウインクしながら言った。

博士

「ところで、新一君、哀…じゃなくて、志保君??？」

志保

「何？」

新一

「俺と志保に何の質問だ？蘭との事なら…………」

博士

「いや、蘭君のことではなくて…………二人はいつ結婚するんじゃない？もう少しで新一君も18じゃろ？」新一+志保  
「ぶっ!!!」

志保

「な、何言つものよ博士!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8936a/>

---

愛と命の境界線

2010年10月11日10時51分発行